

R 7

《小学生の部》  
佳作（警察庁交通局長賞）

福岡県朝倉市立甘木小学校  
6年 手島 琉生

交通ルールは命の約束

「行ってきます」と言って家を出た人が、「ただいま」と帰ってこれない。そんな悲しいニュースをよく目にします。そのたびに胸が痛みます。事故はほんの一瞬で起こり、一度起これば、命を奪ったり、大きなケガを残したりします。私は今、交通安全が「自分の命」だけでなく、「周りの命」を守る行動なのだと強く感じています。

小学校に入学して登校する際、母が毎日「車に気をつけてね」と言っていました。当時の私は、それをただお決まりのセリフだと聞き流していました。しかし成長するにつれて、その言葉の重みが少しずつ分かるようになりました。

私の家は毎年春になると、交通ルールについて話し合います。私の登校ルートには二つ危険がありました。一つは「相手との死角」です。車の確認が遅れるため、ヒヤッとします。なので車が来ていなくても、左右ちゃんと見て、安全に通っていきます。二つは「横断歩道」です。歩行者優先にも関わらず一時停止しない車を見ると、「行っていたら、大きなケガを負っていた」という危ない場面にも遭遇します。そのため、「車の位置」を正しく確認することと「一時停止をしない場合を想定すること」が大切です。今年はこの身近にある危険について話し合いました。このことはすごく胸に響きました。

私の中にはどこか「交通ルールは自分には関係ない」と思いこんでいました。でも、家族で話し合ったことで、交通事故はいつ起こっても不思議ではないと思えるようになり、心がけることができるようになりました。

最近では、友達の中に「ヘルメットはダサい」と言ってかぶらない人がいます。でも私は母の言葉を思い出します。「命を守る方がずっとかっこいい。」確かにその通りだと思いました。命があるから全力で勉強できて、遊べて、笑い合える。交通安全は、夢や未来を守る一つの行動です。

私はこれからも、家族と話し合った交通ルールを守り続けます。そして、ルールを守っていない友達に注意できる人になりたいです。交通安全は一人が取り組むのではなく、みんなで守り合うものだからです。

交通ルールを守ることは、命を守ることです。その思いを胸に、自分自身の行動を見直しながら、日々大切に力強く歩んでいきます。そして、悲しいニュースがなくなると信じ

ています。